

申請者	学科名	造形デザイン	職名	教授	氏名	山下明美	印
調査研究課題	仮設用シートの色彩と景観保全に関する研究						
交付決定額	200,000						
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担		
	代表	山下 明美	造形デザイン・教授	色彩	代表		
	分担者						
調査研究実績の概要	<p><b>研究の目的：</b>  2005年の景観法全面施行を受け、全国の地方自治体も地域の特性を活かした景観条例を策定するなど、様々な施策に取り組んでいる。しかし、こうした国や自治体をあげての景観を守る動きの活発化の一方で、これまでも研究者の間でも問題とされながら抜本的な解決に至っていない景観問題のひとつに仮設空間の色彩がある。</p> <p>仮設空間は、工事現場の仮囲い、資材置場、仮設住宅、屋外イベント施設など短期間設置、もしくは使用される空間（temporary space）などを指すが、仮設であることから、普段、特に意識されることは少ない。しかし、これらも周辺景観を形成する視覚要素となる。仮設空間において特に使用頻度が高い合成樹脂シートは、日本では汎用品にブルーが多いことから一般的には「ブルーシート」と呼ばれている。多用途に対応しうる安価で優れたプロダクツである反面、汎用品の大半が彩度の高い単一色のため、景観保全の視点からはかねてより使い方や製品の色彩改善が指摘されている。</p> <p>本研究では、規制がなく、日常的に関わる生活者や従事者に選択や設置が委ねられている仮設空間におけるシート色の使用状況を調査し、その在り方や改善について考察する。</p> <p><b>研究の結果：</b>  前年度の基礎研究での調査をまとめた結果と考察を第44回色彩学会全国大会[早稲田]'13にて発表した。調査結果は以下の通りである。限られた区間での調査であったが、使用色だけでなく、仮設用シートの用途に関していくつかの特徴を見出すことができた。図1の各グラフは各地域でのシート使用を用途別に分けたものであるが、その用途の順位から調査地の環境の大半が農地であることがわかる。また、図2はそれらをまとめたグラフであるが、農業用に次いで意外に多かったのが、民家の庭先などでの使用で、本来の用途である工事現場、建築現場での使用よりもかなり多いことが示されている。</p> <p>JR沿線（倉敷～服部）ブルーシート使用状況</p>						

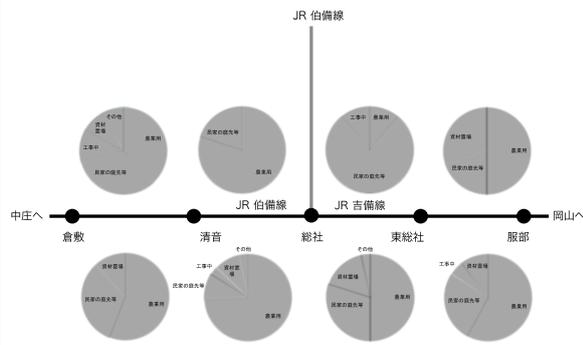


図1 区間ごとのシートの用途

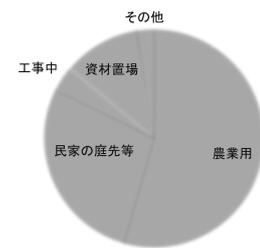


図2 シートの用途まとめ

### 今後の課題

これらの結果から下記のような色彩面での課題が導き出された。

- (1) 農業用のシート色の検討：彩度、明度調整など
- (2) 民家の庭先、その他の使用でのカラーバリエーション
- (3) 安全性と環境の両面に配慮した色の選択
- (4) 景観に対する生活者の意識向上と景観条例の見直し

工事現場等では近年ブルーからグレーや白など景観に配慮したシートやネットが使用されることが多くなってきており、大きな面積を占める仮設空間から少しずつ景観への配慮は始まっているともいえる。ただ、屋外で長時間日光にさらされる用途が多いため、耐光性の強いブルーが推奨されて生産、流通してきたこともあり、使用色の大きな変更は容易ではないともいえる。第一段階として、色相を変化させずに明度や彩度を変化させたシート色の検討と開発を提案したい。また、民家の庭先などでの使用がかなり多いことから、シートの流通の問題だけでなく、生活者の景観への意識向上や自治体での景観条例への追加なども検討する必要がある。

これまでは主に景観の視点からシート色のあり方について調査研究を進めてきた。今後これらを都市景観のあり方として提言していくが、次年度はさらに防災など、安全の視点からもシートを活用する方法について研究を進めていきたい。

### 参考文献

- 1) 山下明美, 第7章「都市の迷彩 金沢・仮設空間への提案」, 山岸政雄編『カラー・オブ・金沢』, 前田印刷出版部, 145-191, 2003
- 2) 晴れの国おかやま景観計画  
<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-82967.html>
- 3) 山下明美, 仮設景観における隠す／顕す色について (1), 岡山県立大学デザイン学部紀要, 2012

### 成果資料目録

AFTジャーナル

「隠す・顕す」色とカタチ2 ～仮設空間の色～  
AFTジャーナル Vol. 52, 2013 他2件

日本色彩学会

山下明美, 仮設空間の色彩の現状と課題 (1)  
日本色彩学会誌, volume37, Number6 610～611頁, 2013

